

山あいの地域の斜面で行う農作業の苦勞を軽減したいと、奈良女子大や電子機器メーカーでつくるグループが、傾斜に強い農作物の運搬車を開発した。お年寄りにも扱いやすいように工夫したのが特徴で、メンバーは「耕作放棄地が減り、後継者が増えて農業の振興につながるべし」と話す。(小林元)

寺岡伸悟・同大学文学部准教授(地域社会学)と、大和高田市の電子機器製造「三晃精機」が連携し、下市町栃原地区をモデルに試作した。

280人が暮らす同地区では、傾斜地に柿と梅の果樹園が広がっており、高齢化率は33%と、全国平均の24.1%を大きく上回る。農家にとって最も負担なのが収穫作業。柿や梅を入れる



走行用ベルト式の電動運搬車

お年寄りの負担・放棄地減

農業運搬車

下市・栃原モデル 奈良女大など開発

山あい楽々

を操作。レバーを離すと、坂道でもぴたりと止まる。

果物は、150kgまで積むことができる。傾斜地でも容易に上り下りできるうえ、ガソリン式と違ってエンジンやギアがなく、お年寄りでも簡単に動かせるのが魅力だ。

一方、手押し車は車輪に内蔵したモーターで駆動する。持ち手のレバーを押すと、電動アシスト自転車のように車輪が動き出す。荷物は50kgまで積める。

地元の自治会長で柿農家の西室勝一さん(60)は「年をとって、柿を背負って斜面を往復するのがかなわない」と、栽培をあきらめる人も多い。販売されたら、すぐにでも使いたい」と注目の。

秋には実用化する見通しで、試作段階の価格はベルト式100万円、手押し車15万円。量産化できれば、

生産コストはさらに抑えられるとしている。

農林水産省によると、こうした山あいの地域は2010年で全耕地面積の40%、総農家数の44%、農業産出額の35%を占める。一方、収穫の労力が負担になるため、放棄地は00年で18万8000haだったのが、10年は21万5000haと増加している。

全国で農作業中に起きた死亡事故は11年、366件に上った。うち7割が農業機械の作業に伴う事故で、65歳以上の高齢者が281人を占めている。

日本農村医学研究所(長野県佐久市)の柳沢和也主任研究員は「こうした事故は、これまで個人の責任とされ、対策も不十分だった。お年寄りが使いやすい機械の開発は、高齢化社会の急務だ」と指摘している。



車輪に内蔵したモーターで荷物を運ぶ手押し車(いずれも昨年11月、下市町で=三晃精機提供)

高取

高取町内の奈良〜平安110点 渡来系遺物など



高取町内の奈良〜平安時代の遺跡や遺物を紹介する「高取の考古学Ⅱ」展が、8日から同町歴史研修センターで始まり、約110点を展示する。入場無料で16日まで。

森カシ谷遺跡の鉄板(縦21cm、横31cm)は、方形の穴に立てた状態で出土した。銘文はなく、墓地の取得を示す「買地券」とみられる。

ほぼ同じサイズの鉄板は平安初期、征夷大將軍として

翠篁会」が、「春の雅楽を楽しむ」をテーマに公演する。

定員は先着50人で、受講料1000円が必要。公演は4回目で、管絃2曲と、舞楽「胡飲酒」「還城楽」を披露する。雅楽の舞について解説するほか、楽器に実際